

今週の聖句

七回どころか七の七十倍までも赦しなさい

マタイによる福音書 18章22節

ねらい

- ・ 神様は私達がした沢山の間違いを許して下さっている事を知り、私達もまた友だちの間違いを許してあげられるようになることを主が望んでおられることを学ぶ
- ・ 私達は自分でも気がつかない間違いを沢山していることを気付かせる。

説教作成のヒント

- ・ 日頃のこどもたちの遊びの中の出来事を通して聖書の物語を身近に感じられる様に。神様はわたしたちが許した友達の違いより遥かに多くの私の間違いを許して下さっていることを知らせる。

豆知識

- ・ タラント 重さの単位 金1万タラント、銀1万タラント、銅1万タラント等で値打ちが変わる。銀1万タラントはかなり広い土地をもつ領主の土地くらいの値打ちがあり一生かかっても返せない位のものと思われる
- ・ デナリオン ローマの硬貨の単位。1デナリオンは1日の労働の報酬程度

説教

たっちゃんはお誕生日におじいちゃんから買ってもらった新幹線 N700 系を持ってカンちゃんのところに遊びにいきました。カンちゃんの新幹線は 500 系です。線路を作って二人で新幹線を走らせました。「ねえねえ、タッチャんの 700 系僕にも貸してよ」「いやだよ、だってこれまだ新しいんだもん」「ちょっとでいいからさあ」とカンちゃんがタッチャんの新幹線を無理矢理とりあげました。「いやだって言ってるだろー」カンちゃんを取りかえそうとしました。二人で取り合いをしているうちに新幹線が階段から落ちて壊れてしまったんです。タッチャんはもう泣きそうになって壊れた新幹線を持つと「御免ね御免ね」と誤っているカンちゃんに「もうカンちゃんとなんか遊ばない、絶交する」と言って家に走って帰りました。

「まあタッチャんどうしたの？」お母さんは泣き乍ら帰ってきたタッチャんを見て聞きました。「だってカンちゃんが、カンちゃんが、、、」とタッチャんは泣きながらお母さんにカンちゃんのことを言いつけました。お母さんはだまってタッチャんを応接間に連れて行くと聞きました。「タッチャん、この前の日曜日雨降ったでしょ、タッチャんここで何した？」タッチャんははっとしました。そうなんです、日曜日に雨が降って外へ遊びに行けなくなったタッチャんは応接間でボール遊びをしていたんです。そうして応接間に飾ってあったお父さんがとっても大切にしていた大きな花瓶を壊してしまったんです。おとうさんはカンカンになって「普段から応接間で遊んだらいけないって言ってるだろう」とどなりつけました。タッチャんは「ごめんなさい、ごめんな

さい」と一生懸命誤ってやっと許してもらったことを思い出しました。「タッチちゃんの壊した花瓶はね、お父さんがおじいちゃんからいただいた大切な物でタッチちゃんの新幹線が100以上買えるほど上等なんだよ、でもお父さんはタッチちゃんが一生懸命誤ったら許してくれたよね」「うん、分った」タッチちゃんはカンちゃんの家に行って行くと「カンちゃん、また明日も遊ぼうねー」と言うのと走って帰ってきました。

今日聖書に書いてあるお話は王さまに1万タラントンを借りていて許してもらった家来が自分の友だちに貸してあげた100デナリオンを許してあげる事が出来なかったお話でした。

私達もタッチちゃんのように喧嘩をしたり、お父さんの言う事を聞かないで大切な花瓶を壊してしまったり、お友達に意地悪をしたり、自分でも忘れてしまう位間違っただけを沢山しています。それでも神様は「いいよ」って私達のした間違いを全部許してくださっています。神様が私達を許して下さいました様に私達もお友達に御免ね、って言われたら「いいよ」って言える様になりたいですね。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

56番

改訂27番

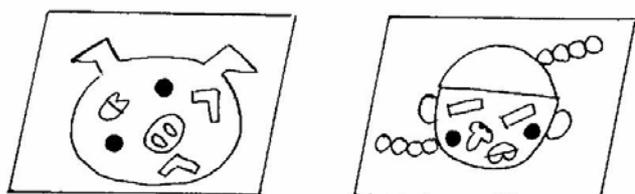
話してみよう

・高学年の話し合い。私達は友人をなかなか赦す事ができない事実を話し合う。自分が神様に赦してもらいたいことはどんなことがあるか、話し合う。

やってみよう

福笑い

私たちの日常でいやなことをされると怒ったり、泣いたりして笑えない顔になります。でもその顔を続けるのは大変です。私たちは神さまから許されて愛されています。そして福笑いはどんな顔になっても笑って許せます。福笑いをして、いろいろな顔になっても許してもらったり許してあげてみんなで楽しみましょう。



* 人の顔だけでなく、動物の顔でもやってみよう！

暗唱聖句

後にいる者が先になり、先にいる者が後になる

マタイによる福音書 20章 16節

ねらい

- ・ 神様は人の能力や体力によらずだれでも同じ様に愛して下さる事を知らせる。

説教作成のヒント

- ・ 導入の部分は三人称で話す事もできます。子ども達は自分に身近な人のことには興味を持ちますからそれぞれ工夫してみましょう。

豆知識

- ・ 1デナリオン - 1日の労働に対する賃金 現在の日本なら6～7000円位？

説教

私は4人兄弟の一番上で妹と二人の弟がいました。小さい時からいつも母の手伝いや父の手伝いをしていました。大きくなってからもてつたうのは何時も私で妹はあまりてつたわないで弟たちと遊んでいました。特に年末の大掃除やお正月の用意をする時等はテレビばかり見ている妹に腹がたっていました。でも母は私がてつたからと言って私だけに美味しい物をくれたりお小遣いをくれたりするわけではありません。おやつもごちそうも何も手伝いをしない弟たちも私も同じようにくれました。なんだかてつたっている人が損をしているような気分です。

今日の聖書のお話はぶどう園の主人が働く人を探しに行くお話です。主人は夜明け前、朝9時ごろ、昼12時ごろ、3時ごろ、夕方5時ごろ、と5回もでかけて同じ様に「働いてくれたら1デナリオンあげるよ」と約束します。そして6時頃仕事が終わるとみんなに1デナリオンずつ支払うのです。そこで最初から1日中働いた人が文句を言いました。夕方5時から1時間しか働かなかった人が1デナリオン貰ったのだから1日中働いた自分はずっと沢山貰えると思ったからです。私達が考えても1日中働いた人が文句を言う気持ちがわかりますね。

でも主人は「貴方にも働いたら1デナリオンあげると約束をしたでしょう。何か文句がありますか？」と言います。そして「私はこの最後の者にも同じように支払ってやりたいのだ」と言われるのです。

みなさんの中には頭が賢くて勉強が良く出来る人もいるでしょう、そんなお友達は大人数になって学校の先生になったり政治家になったりして人のためによく働く事が出来る人になるかもしれません。体が強くて力持ちの人もいますね、強い体を使ってスポーツ選手になったりする人もいます。お医者さんや看護婦さんになって病気の人のために働く人もいます。でもみなさんのお友達の中には体が弱くて色んなお仕事が出来ない人もいます。それどころか体に障害があつてずっと寝たきりで学校に来る事ができないお友達もいます。

でも神様は私達一人一人を大切に思って下さっています。お父さんやお母さんがどの子どもも同じ様に可愛がってくださると同じように、勉強が出来ても出来なくても、体が強くて弱く

ても、沢山お仕事出来る人も、少ししかお仕事出来ない人も、全然お仕事出来ない病気の人も、どの人も同じように大切に思って愛して下さいなのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は” こだもさんびか ” (日キ版) より

53番

改訂119番

話してみよう

高学年：神様は私達の能力や働きによらず、一人一人の存在そのものを認めて大切にしてくださいについて話し合う。特に現在の学校では勉強出来る人、優れた能力のある人のみが認められる傾向がある。学校の価値基準と神様の価値基準の違いを話し合いたい。

やってみよう

神さまの恵みは私たちがどれだけしたかという働きの量ではなく、神さまの自由な意志によるもの。今日は神さまの気持ちを知ること注目しましょう。

ゲーム『どっち?!』

人数：2人以上とリーダー2人 対象：年長児～

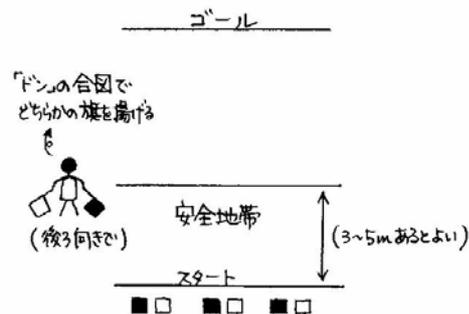
準備物：赤旗、白旗1本づつ、人数分の赤と白の布

スタートと安全地帯となるライン、そしてゴールラインを引く。

スタートラインには、スタートする人数分の赤・白の布を並べておく。

「よ～い」の合図の間にスタートする子どもたちは赤・白どちらかの布を選び、手に持って安全地帯で待つ。安全地帯ではどこで待っていてもよい。

「よ～い」の間に旗を掲げるリーダーも赤・白どちらかの旗を選び、合図する。リーダーが「ドン」を言ったらすぐに掲げる。子どもたちはそれを見て、同じ色を選んでいればゴールへ向かって進むことができる。同じ色を選んでいなければ再び布が置いてあるところへ戻って同じ色を持っていかなければならない。早くゴールした方が勝ち。



- ポイント：
- ・ 旗を掲げるリーダーは子どもたちが布を選んでいるところを見ないで、後ろ向きになったまま、気まますに旗の色を選ぶようにする。
 - ・ 合図するリーダーは子どもたちにどちらの旗が揚がるか少し考える間があると盛り上がる。

合図するリーダー「よ～い」「ドン」

暗唱聖句

家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった

マタイによる福音書 21 章 42 節

ねらい

- ・ 神様が悪い農夫のような私達を大切に一人息子のイエスさまを送って下さるほどわたしたちを愛してくださっていることを知らせる。

説教作成のヒント

- ・ 神様が大切な独り子のイエスさまを私達のところに送って下さった事。
- ・ 人々はそのイエスさまを石くずのように捨てて十字架にかけてしまったこと、けれどもその捨てられた石が一番大切なものとして復活して救い主となられた。

豆知識

- ・ その時代イスラエルでは石で家を作っていた。大きな岩から石を切り出して家を作るのでくずになる石は皆捨てられた。
- ・ 隅の親石、というのは日本の家なら大黒柱のようなもので家を作るときの土台となる一番大切な石のこと。

説教

イエスさまがお話しになった警え話です。

ある家の主人がぶどう園を作りました。垣根を作って、葡萄を絞る場所を作って、見張りの櫓を建てました。そしてこれを農夫たちにまかせて旅にでたのです。

これはその頃のユダヤの国ではよくあることでした。葡萄園には悪い人が入って来ない様にちゃんと垣根を作って葡萄を守ります。葡萄から美味しい葡萄酒を作るために葡萄を絞る場所も作ります。葡萄を絞る入れ物は二つあって高い所で葡萄を絞るとその汁が低い所に流れる様にしてそれを入れる入れ物も作ってあったということです。

それから葡萄が出来る頃になるとせっかく出来た葡萄を盗まれない様に高い所に見張りのやぐらを作って働く人はその櫓の上で泊まっていたということです。

主人は忙しいのでそれを働く人たちにまかせて仕事に出かけていました。働く人たちを見張ったりせず信用してすっかりまかせて出かけていたのです。

葡萄が出来たころに家来を葡萄園に送って出来たものを貰って来るようにとお使いに行かせました。ところが働いていた農夫たちはお使いに来た家来の一人を捕まえて、もう1人を袋だたきにして、もう1人を殺し、最後の一人も石で打ち殺してしまいました。そこで主人はまたもっと沢山の家来を行かせましたが最初に行った家来たちと同じようにひどいめに合わせてしまいました。そこで主人は大切な自分の息子を行かせたら自分のこどもだから大切にしてくれるだろう、と思って息子を行かせました。ところが農夫たちはこの跡取りを殺してしまったら後は自分たちの物になるだろう、とこの息子も殺してしまったのです、この話を聞いていたファリサイ派の人たちはイエスさまが自分たちの

ことを言っておられることがすぐに分かりました。それは普段からイスラエルの人たちは自分たちのことを葡萄園と言っていたからです、主人は勿論神様です、そして息子とはイエスさまのことです。お使いに行かされた家来たちは預言者のことです。神様はイスラエルの人たちに次々と預言者を送って神様の言葉を伝えようとされましたが人々はだれも預言者の言葉を本気で聞きませんでした。そして神様が遣わされた独り子のイエス様まで殺そうとしていることをご存知だったのです。イエスさまは「家を建てる人が捨てた石が隅の親石となった」と聖書の言葉を使って人々に話されました。それは人々が役に立たない石として捨ててしまった石、十字架にかけられたイエスさまが最後には一番大切な石、救い主キリストになった、と言う事を言われたのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

88番

改訂40番

話してみよう

- ・ 高学年:もしこのお話を劇にするとしたら自分はどの役の人だろう。当時の時代背景等も少し詳しく説明したい。

やってみよう

石と仲良くなるう

いろいろな形の石を探しに行こう。

教会の庭や道端、公園などで自分の石を見つけよう。

滑らかな石はよく洗い、乾いてアクリル絵の具で模様をつけてもよい。

* 教会の庭や道端などにあるただの石が意味のあるものになることを体験できる。思い出の石・プレゼントする石・プレゼントされた石は誰かのために、または自分のために用意された特別なものになっている。そのただの石も神さまがくださったことに気づけるといいですね。

暗唱聖句

招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない

マタイによる福音書 22章 14節

ねらい

- ・ 神様はいつも用意を整えて私達を招いていて下さる。
- ・ わたしたちはこの世の仕事（勉強やクラブ活動等）を優先してせっかくの招きを無視している
- ・ 招かれて行っても礼服を着ない（悔い改めない）人は天国には受け入れられない

説教作成のヒント

- ・ イエスさまは譬え話を通して私達を招いて下さる神様のことを教えられた。
- ・ 神様がすべてを用意して待っていて下さっても私達が悔い改める事なしには神の国にはいることはできない。

豆知識

- ・ その時代婚宴に招かれた人は招いた主人が用意した礼服を着るのが習慣であった。

説教

今日のお話は主人が息子の結婚式の宴会にみんなを招待しておられるお話です。言い換えると神様は私達を天国に入る様に招いていてくださるのです。それは「私を信じる者は永遠の命を与えられる」と言っておられる様に永遠の命を頂く為には、私たちは自分でそこに、宴会に出席しないと永遠の命は頂けないのです。招かれた人たちは畑に行って仕事をしたり、商売をしたりしていて宴会に出席しませんでした。わたしたちも神様がおられることは知っていますが、神様が教えて下さっている永遠の命が大切なことは頭では分っているのですが受験勉強が忙しかったり、クラブ活動があったりしてなかなか神様の呼びかけに従って行く事はできません。でも「先ず神の国と神の義を求めなさい、そうすれば他のものは全て与えられるであろう」と聖書にかいてある通り、神様のことを一番に考える事が大切です。ここで招かれた人、と言うのはイスラエルの人たちのことです。招かれた人が行かない場合、主人は招かれていない人たちを宴会に呼んで来られます。招かれていなかった人は異邦人、イスラエル以外の国の人たちです、だから私達の国にもイエスさまの教えが伝えられてきました。私たちは神様に招かれています。イスラエルの人たちは聖書の言葉を暗唱し、沢山の律法を守っていましたがせっかく招いてくださる宴会に出席しませんでした。それでイエスさまの教えはイスラエルの人だけでなく世界中の人に伝えられる事になったのです。他の国の人たちが招かれたのです。

ここに招かれて出席したけれど礼服を着ていなくて汚い服のまま来た人は外に出されたと書いてあります。その頃、礼服は招いた主人が用意するものでした。主人が招かれたお客様の礼服を用意して下さっていたのです。私たちは神様に招かれて近くに行ってもみんなが天国に入れるとは限りません。古い服を脱ぎ捨てて、罪を悔い改めて、新しい礼服、悔い改めた心を持った時

に初めて天国に入れられるのだと言われます。招かれる人は多いが選ばれる人は少ない。ということですが。

わたしたちは宴会の用意をして、礼服まで用意してわたしたちを待っていて下さる神様のところに行き古い自分を脱ぎ捨てて新しくなって永遠の命を頂ける様になりたいと思います。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

60番

改訂115番

話してみよう

高学年の話し合い: 招かれて神様のところに行くとはどういうことか、礼服を着るとはどういうことか、をみんなで話し合う。

やってみよう

教会学校への招待状づくり

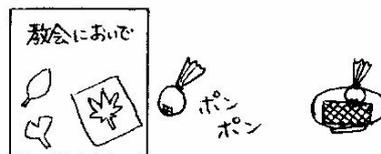
心を込めて作ったものをもらうとその人はとても嬉しい気持ちになるのではないのでしょうか。お友だちへ招待状を作って教会学校へ誘いましょう。

例えば...

ステンシルカード

準備...画用紙(ハガキ大)、厚紙、絵の具、タンポ(脱脂綿やスポンジを布に巻いてしぼる)、スポンジ、皿

厚紙で型を作る



* 来たくなるためにはどうしたらいいか、楽しいことを準備して迎えるように考えられるといいですね。神さまはいつも用意して待っておられます!

暗唱聖句

皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい

マタイによる福音書 14章 31節

ねらい

- ・ ファリサイ派の人々がイエスをなんとか捕えてしまいたい、と考えて色々罾をしかけてきた。イエスさまはいつも神様から頂いた智慧で罾をのがれられた。

説教作成のヒント

- ・ イエスさまはこれまでのユダヤの宗教的指導者たちを悪い農夫や婚宴に招かれてもこなかった客に譬えて話されていた。
- ・ その事に憤慨したファリサイ人たちがなんとかしてイエスを陥れようと考えた質問である。

豆知識

- ・ ローマが集めていた税金は3種類（地税＝穀物の10分の1、酒と葡萄酒の5分の1を現物と現金で納める。所得税＝収入の1%。人頭税＝14～65歳の男子、12～65歳の女子が納める。額は1デナリオン（労働者の1日分の賃金）であった。

説教

みんなときどき喧嘩するでしょう。「ばーか」「そういうお前がばーか」とか言って相手の悪口を言うと相手も悪口を言い返しますね。

今日のお話はちょっとそれと似たところがあると思います。この前とその前、イエスさまは葡萄園の主人の息子を殺してしまった悪い農夫、そして婚宴に招かれても参加しなかった人たちの譬え話をなさいました。それを聞いていたファリサイ人たちはイエス様が自分たちのことを言っておられることが分かったのでとても腹をたててなんとかイエスさまに仕返しをしてやり込めたい、と思って色々と考えました。その頃、ユダヤの国はローマの国に納められていました。ローマの国はユダヤの人たちに対して色々な税金を払わせるのでユダヤの人たちはすっかり困っていたのです。でもローマに税金を納める事は法律で決められていたので仕方なくいやいや納めていました。だからユダヤの人たちは税金ばかり集めに来るローマ人たちを嫌っていました。そこでファリサイ派の人たちは自分たちの弟子とローマに協力をして税金を集めていたヘロデ党の人とをイエスさまの所に行かせて言わせました。16節を見て下さい。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。」とはじめにイエスを褒めて、さもイエスさまの教えが正しい、と言う様に話しかけています。そして17節では「ところでどうお思いでしょうか、お教え下さい。皇帝に税金を納めるのは律法に適っているのでしょうか、適っていないのでしょうか」と質問します。イエスさまはすぐにこの悪巧みに気がつかれました。もしイエスさまが税金は納めなくても良い、と言われたらイエスさまがローマ政府に反対した、として逮捕することができます。でももし税金を納める事が正しい、と言われたら税金を納める事をきらっていた沢山の人の人気を失うことになります。特にユダヤの人々は神様を信じていましたから地上の

王様に税金を納める事は神様のみこころに反することだと思っていましたからイエスさまは神様を認めていない、と言う事になってしまいます。どちらの答えを言ってもイエスさまは困った立場に立つ事になるからです。けれどもイエスさまは「偽善者たち、なぜ私を試そうとするのか、税金に納めるお金を見せなさい」と言われました。税金はデナリオン銀貨でした。質問をした人が銀貨を持って来るとイエスさまは「これはだれの肖像か、」と尋ねられました。「皇帝のもです」と答えると「では皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と言われました。その時代はだれかが王様になるとすぐに自分の肖像を入れたお金を作らせました。そしてこのお金は肖像が刻まれている王様のものだとしていたのです。みんなはイエスさまの智慧ある答えに何も言う事ができませんでした。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

5 2 番

改訂 1 1 番

話してみよう

高学年の話し合い

- ・今の時代には「皇帝のものは皇帝に、神の者は神に」とはどういう風に考えられるか

やってみよう

話し合いをしよう 『神さまを第一に考えるって?』

・子どもたちにとって「神さまを第一に考える」というのはどんなことが紙に書いてもらう。そしてみんなで出し合って読みましょう。

- ・次に教会にどんな気持ちで来ているのかを聞いてみる。

子どもたちの素直な率直な気持ちを受け止めましょう。そして、それは神さまを一番に考えてのことなのか話し合ってみましょう。

* リーダー(スタッフ)は大人の視点で教会に来ている子どもたちは「神さまを第一としている」と思っていないか考えてみましょう。「教会へ行きたい時」「教会へ行きたくない時」「行きたく時はどうしたか」など思い出してみんなで考えましょう。

- ・十戒(特に第一から第三の戒め)を声に出して言ったり紙に写し出してみましょう。
- ・神さまはどんなにひとりひとりのことを喜んでくださっているのかを伝え、お祈りする。

暗唱聖句

わたしの父の家を商売の家としてはならない

ヨハネによる福音書 2章 16節

ねらい

- ・ 信仰は善行によって得られるものではなく、神様の恵によって得られるものである。目に見えない信仰を大切にしたい。

説教作成のヒント

- ・ ルターは善行の積み重ねではなく信仰によってのみ義とされることを示された。
- ・ イエスは目に見える神殿ではなく（ご自身の体を神殿に譬えておられるが）目に見える捧げものを神殿で売る事を善しとされなかった。

豆知識

- ・ ルター1483年11月10日～1546年2月18日 神学者、牧師、説教家、ルーテル教会の創始者、もと聖アウグスチノ修道会の修道司祭であったが宗教改革の中心人物となりプロテスタント教会の源流をつくり聖書をドイツ語に訳した。

説教

今日は宗教改革記念礼拝の日です。

宗教改革はマルチン・ルターがその頃の教会を指導する人のやり方を批判して95か条の論題（考えてほしい事）を城教会の扉に貼付けたことから始まり、ドイツ全体、そして他の国々にも広まって行きました。

ルターはエルフルト大学で法律を勉強している時、休暇で帰っていた家から大学に戻る途中、野原で激しい雷に出会います、その時に怖さのあまり「聖アンナさま助けてください、助けてくださったら修道士になります」と叫んでしまいます。そのことから家族の反対を押し切って大学を止めて修道士になったルターはなんとかして自分の罪をゆるしてもらって神様の前で正しい人になりたいと思いと修行をし、善い事をします、そして司祭になり大学で哲学や神学を教えます。けれどもどんなに善い行いをしてしても苦しい修行をして自分も神様の前で正しい者として赦されている、という気持ちになることができず、悩み続けていたのです。ある時に人間が神様の前で義とされるのは、正しい者とされるのは善い行いをしたからではなく、神様の恵で正しいものとされるのだ、そのことを信じる信仰が大切なのだと言う事に気付かされてやっと心が平安になったのです。

その頃教会の指導者たちは自分の利益の為に金を集める事に一生懸命になり、信仰を大切にすることを忘れていました。贖宥状（免罪符とも言われている）と言うものを発行して、これを買った人は罪の償いをしなくても良い、と言って人々に売っていました。ルターはそのような指導者や教会を批判して1517年の10月31日にお城の教会の扉にみんなで考えてほしい95の事を書き出して貼付けました。ルターは人間の罪は免罪符を買って赦されるものではない、その人の信仰によってのみ赦されるのだ、と言う事が言いたかったのです。

今日、聖書で読んだヨハネによる福音書ではイエスさまが神殿から商売をしている人々を「私の父の家を商売の家としてはならない」と言って追い出されたことが書かれています。神殿では神様に捧げる鳩や羊が売られ、お金の両替もされていました。イエスさまは本当の礼拝は目に見える鳩や羊を捧げることではないと言っておられるのだと思います。

目に見えるものは分りやすく、見えないものはなかなか分りません。目に見る事ができない信仰も私達にはなかなかわかりません。でも神さまが下さっている恵は数える事ができますね。神様は目に見える沢山のものを私達に下さっています。今日ここでみんなと一緒に礼拝ができることも大きな恵です。かみさまが下さっている沢山の恵を感謝して、目にみえないものを大切におもふことができるようになりたいと思います。

さんびしよう

* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

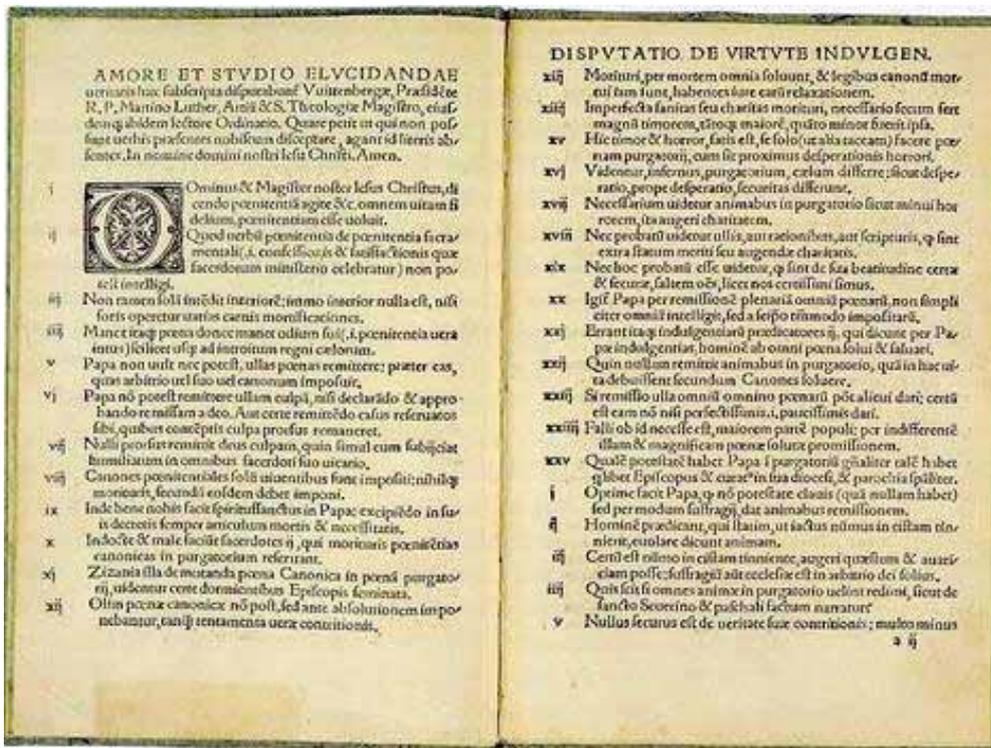
38番

改訂85番(1, 2, 4)

話してみよう

高学年の話し合い。

人は目に見えること(礼拝に休まない、とか沢山献金をする、とか)でその人を判断しがちです。目にみえないことを見る心の目はどうしたら見える様になるでしょう。



95ヶ条の提題の一部 (正式名称「贖宥状の意義と効果に関する見解」)